

目指せ！銚子をジオパークに！

「ジオパーク」活動③

みんながジオパーク活動に関わっている。



▲銚子ジオパークの啓発活動

第4回門前・軽トラ市（平成23年9月25日開催）に出展した、千葉科学大学の安藤生大准教授（写真右端）と学生たち。このほかにも、さまざまなイベントに参加し、銚子の魅力を発信している。

銚子でのジオパーク活動は、千葉科学大学と銚子ジオパーク推進市民の会の皆さんが、精力的に展開しています。

市民の会の皆さんは、千葉科学大学で地質に関する知識を学び、現在、犬吠埼や犬岩、屏風ヶ浦などで実施しているジオツアーのガイドとして、魅力ある銚子の地質を全国にアピールしています。

ガイドの皆さんは個性豊か。自分たちの経験を活かした内容と味付けで、楽しいジオツアーを展開しています。

このように、専門的な知識を習得し、ガイドとして活動する人々がいる一方で、銚子市民の皆さんも、実は知らず知らずのうちにジオパーク活動の大切な担い手となっているのです。

例えば、銚子特産のキャベツ栽培農家の皆さんは、なぜ銚子のキャベツがおいしいのかという理由を。また、漁師さんは銚子沖が素晴らしい漁場である理由を説明することができます。それが、すでにジオパークの活動に関わっていることなのです。郷土の歴史や植物の話、おいしい食べ物などの銚子の魅力ある産物は、すべて大地と深く結びついています。また、地域の清掃活動もみんな大切なジオパーク活動です。

どんな小さなことでも、自分の住んでいる地域の魅力に気付き、語り、伝える。そこに人と人の繋がりができ、支えあうことになる。それがジオパーク活動なのです。

今月の表紙



震災を乗り越え希望の船出
第一吉代丸 竣工式

銚子漁協に所属し、ヒラメやホウボウなどを獲る沖合底びき船の新造船「第一吉代丸」(19トン)が完成し、5月11日(金)に第三卸売市場で竣工式が行われました。銚子での新造船は平成20年4月に竣工した「富丸」以来、4年ぶりとなります。

船主ごとの個別経営では老朽化する漁船の代船建造が経済的に難しい中、市内の船主4人が銚子沖合漁業生産組合坂本雅信組合長)を結成。国などの助成を受け4隻の船を順次、新しい船に代える方針で、今回は富丸に続いて2隻目となります。

同生産組合では、相馬双葉漁協(福島県)の船型をモデルとして、採算性が悪化していた大型漁船から小型漁船に転換。相馬双葉漁協での実績から、2隻とも福島県相馬市の松川造船(早川宗延社長)に発注しました。

第一吉代丸の建造は昨年3月1日に着工されましたが、その後、松川造船は大震災の津波で壊滅的な被害を受けました。早川社長は「被災直後、一時は建造を断念」しましたが、「何とか造ってほしい」という銚子の関係者らにも励まされ、今回の竣工にこぎつけました。坂本組合長は「津波を乗り越えた強運の船大漁を期待しています」と話していました。

人のうごき 平成24年5月1日現在 カッコは前月比

■人口 68,017人(-108人) ■男 32,893人(-38人) ■女 35,124人(-70人) ■世帯 26,907世帯(+23世帯)
4月中の人口動態 ●出生30人 ●死亡62人 ●転入など170人 ●転出など246人

